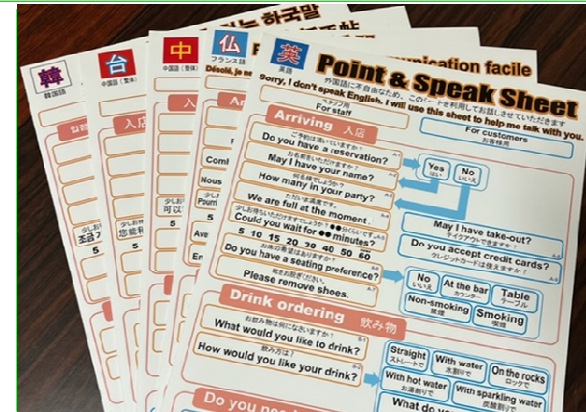


### 【取組み内容】

- ・多言語指差しシート作成(飲食店、物販、避難所)  
— オンライン上で公開され、誰でも利用可能
- ・行政への提言活動(熊本市や熊本県の国際及び観光関係部署と連携した多言語表示改善への取り組み)
- ・企業への提言活動(地元企業への外国語表記改善提案)
- ・多文化共生・多言語情報に関するラジオ番組の提供



### 評価項目ごとの取組みの特徴・ポイント

|     |  |
|-----|--|
| 普遍性 | 外国語表記に関し行政・企業への提言を行う点で、熊本におけるロールモデルとしての役割を果たし、今後TSMC進出などの背景を踏まえ、継続・発展性が見込まれる活動である。           |
| 包摂性 | 「誰一人取り残さない」というSDGsのモットーは、熊本県人口の1%以上を占める外国人居住者や、旅行者に当てはまるべきであり、多言語表記は情報格差を無くすという意味で社会的効果を持つ。  |
| 協働性 | 行政・企業のみならず、国際交流推進団体や、次世代の大学生・留学生と共に創り出す活動である。  |
| 統合性 | インバウンドの復活とTSMCの進出を1つの機会として多言語発信が充実することは、経済的効果が高く、多様性を認める社会形成に寄与し、観光・経済資源としての環境への関心を高めるものである。 |
| 透明性 | 情報発信媒体である、Facebook、website、ラジオ番組は、いずれも公表され、印刷媒体と比べ、アップデート性が高く、ラジオ番組に関しては審議会を通じた改善がなされるものである。 |

### 貢献するSDGsのゴール

